

# 読書メモ 2020年4月号

やなぎさわかつひろ  
柳沢克央 編

(信州・上田仮説サークル)

2020年4月25日(土) 15:00～, 4月例会用レポート

ZOOMにおける上田仮説サークル史上初のオンライン例会

## ◆今月読んだ本

### ◆◎◎◎◎著『××××』(ちくま新書・2009年刊)

「なるほど」と思った部分を引用します。著名人の手になるものです。書名を当ててみて下さい。

\*

…ある国の暴力的な政治というのは、暴君やとんでもない官僚のせいばかりではない。その大元は、国民の無知が原因であって、自ら招いたわざわざとも言える。人にけしかけられたり、暗殺を企てるものがあったり、新法を誤解して一揆を起こすものがあったりする。強訴を名目として、金持ちの家を襲って酒を飲んで金を盗むものもある。そのやり方は、人間のやることとは思えないほどにひどい。このような社会的に害のある人間を取り扱うのには、釈迦も孔子も名案がないに決まっている。どうしても厳しい政治を行わざるを得ないのだ。

だから、人民が暴力的な政治を避けようとするならば、いますぐ学問に志して、自分の才能や人間性を高め、政府と同等の地位にのぼるようにしなければならない。

… (以上)

\*

古典というのは、場合によっては「予言の書」として扱うことができる。それほ

ど、人間の物事の考え方というのは不変の部分が多く、したがって普遍性がある。想像力が創造の源となるように同音異義語というのはじつは親和性が強い場合が少なからずあるようだ。

◆藤巻健史著『日本・破綻寸前』(幻冬舎・2020年3月20日刊)(私物)

今後の日本経済の展望が書かれている。詳しくは口頭で。

◆黒川伊保子編著『妻のトリセツ』(講談社+α新書・2018年)(私物)

部分的には面白く読んだ。

◆松岡亮二著『教育格差—階層・地域・学歴』(ちくま新書・2019年刊)(私物)

日本は「緩やかな身分社会」であることが、各種データの提示と、緻密な分析から解き明かされる。この状況は今後も進展していくものと考えられる。日本国憲法の理想とはだいぶかけ離れた状態となりつつある。

伝染病の蔓延で、社会が一気に次のステージに変革されるプロセスの只中にあると思われる。注視し、必要な行動をとることが求められることになるだろう。学校教育への情報産業の食い込みが怒濤の勢いで始まっている。動向を注視していきたい。

◆宇野千代著『青山二郎の話・小林秀雄の話』(文春文庫・2019年オリジナル版)(坂城町立)

素晴らしい部分を抜き書き。「真の模倣」の素晴らしさが凝縮されている。…私は長年の間、青山二郎とつき合っていて、その影響で、茶碗や皿を見るのが好きになり、「青山二郎ならこの茶碗は好いと言うに違いない」とか「青山二郎ならこの皿はよくないというに違いない」とか、凡て青山二郎の眼を通して、ものを見るようになった。そして、その青山二郎の真似によって、いくらかでも、ものが見えるようになった、とそう思っているのです。どうか、誰方(どなた)も遠慮な

く、人の真似をしてごらんになったら、と私は思っているのです。—初出『幸福は幸福を呼ぶ・人生の叡智 235 編』（海竜社・1985 年刊）より

◎あとがき・つぶやきメモ

○日本経済新聞を毎朝、コンビニで買っている。180 円出したからには必要な情報を確実に吸収してやるぞ。だけど無駄な記事は読まされないぞ…との気構えで読んでいる。特に長文の論考は熟読し、将来展望に役立てることができるところが素晴らしい。これは発見であった。「日本経済新聞の長文記事には役立つものがかなりある。しかも、いい記事ほど寿命が長く、真価はあとになってジンワリと浮かび上がってくるらしい」ということが分かった。一大収穫である。

○AI 技術で「無観客試合」を「ヴァーチャル満員御礼試合」にする

①AI に過去の相撲中継やプロ野球の試合の光景や音声、カメラワークを学習させる。

②無観客試合を撮影する。

③合成により、擬似的な臨場感を付加して放映する。

④多少のずれや、違和感があっても、観客がいない者よりはずっと良い中継になる。

⑤場合によっては、観衆の声だけ、国技館に放送するだけでも、力士たちの士気も上がるというものである。

⑥スクリーンに観客の映像を投影するのも良いかも知れない。

⑦またとないこの状況を最大限に活用して、革新の材料とする。

以上は、通勤途中のクルマの中で思いついた。新しい通勤方法によってこのアイデアが生み出されたのだから、これも新型コロナウイルスがもたらしたものと考えれば、プラス材料であるとも考えられる。〔以上 4 月 25 日（土）昼、脱稿〕